

公立大学法人札幌市立大学
第三期中期目標の期間の終了時に見込まれる
中期目標の期間における業務実績に関する評価結果

令和4年8月

札幌市地方独立行政法人評価委員会

1 公立大学法人札幌市立大学の中間評価（※）の方法

（※）中間評価～中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務実績に関する評価

- (1) 中間評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。
- (2) 項目別評価は、中期計画の次に掲げる事項（大項目）ごとの実施状況の評価を行う。
 - ① 教育
 - ② 研究
 - ③ 地域貢献
 - ④ 大学運営
- (3) 項目別評価に当たっては、まず、中期計画の記載項目（小項目）ごとに、次に掲げるⅣ～Ⅰの4段階で進捗状況の評価を行う。なお、評価委員会の評価が公立大学法人による評価と異なる場合は、その理由等を示す。
 - Ⅳ：中期計画を上回って進捗している
 - Ⅲ：中期計画の進捗が十分である
 - Ⅱ：中期計画の進捗が十分でない
 - Ⅰ：中期計画の進捗が大幅に遅れている
- (4) (3)の評価等を踏まえ、中期計画の大項目ごとに、次に掲げるS～Dの5段階で評価を行う。
 - S：特筆すべき進捗状況にある（評価委員会が特に認める場合）
 - A：計画どおり進捗している（小項目のすべてⅣ又はⅢ）
 - B：おおむね計画どおり進捗している（Ⅳ又はⅢの小項目の割合が9割以上）
 - C：やや遅れている（Ⅳ又はⅢの小項目の割合が9割未満）
 - D：重大な改善事項がある（評価委員会が特に認める場合）
- (5) 全体評価は、(4)の項目別評価の結果等を踏まえ、中期計画全体について総合的な評価を行う。

2 全体評価

(1) 総評

平成 18 年に開学した札幌市立大学は、デザイン分野と看護分野における「人間重視を根幹とした人材の育成」と「地域社会への積極的な貢献」を教育研究上の理念として掲げ、「D×N」（ディー バイ エヌ、デザインと看護の両分野の連携）による特色のある教育・研究を行い、幅広い教養と豊かな人間性を有する人材を育成するとともに、地域に根ざした公立大学として、知的資源を活用した社会貢献にも取り組んできた。

第二期（平成 24～29 年度）においては、平成 24 年 4 月にデザイン研究科及び看護学研究科博士後期課程を開設し、より高度な研究と人材育成に取り組み、また、25 年度には、文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC 事業）」の採択を受け、地域志向の教育、研究、地域貢献の取組を推進してきた。このほか、新カリキュラムの導入や外部機関と連携した研究の活性化、公開講座の積極的な開催などを行い、間断なく大学を発展させてきた。

第三期（平成 30～令和 5 年度）においては、社会的な変化に的確に対応するとともに、学術研究の高度化等に対応した職業人の育成と地域社会への積極的な貢献を目指し、実社会との関わりをより一層深め、「D×N」による教育・研究・地域貢献の取組を磨き上げ、一つひとつの成果を市民が実感できる大学づくりを行っていくこととしている。

第三期中期目標期間終了時に見込まれる業務実績の評価としては、教育、研究、地域貢献、大学運営の 4 項目すべてが A 評価であり、それぞれ計画どおりに進捗していると認められ、中期目標の達成に向けた進捗状況が良好であるものと評価する。

(2) 評価内容

ア 教育

小項目数 13 のうち、IV 評価が 4 項目、III 評価が 9 項目であり、中期目標期間の業務が十分に進捗しているものと認められる。

特に、地域や仕事の現場で活躍できる実践能力を養う「デザイン総合実習Ⅳ」にて、毎年度の実績を積み重ねたことにより、令和 3 年度には 8 企業 7 団体と連携課題を実施したことは特筆すべき成果であり、高く評価できる。（小項目 4）

また、看護及び助産実践能力の向上（小項目 5）や高度な職業人・研究者・教育者の育成（小項目 8）、適時適切なキャリア支援（小項目 9）は、評価できる。

イ 研究

小項目数5のうち、Ⅳ評価が2項目、Ⅲ評価が3項目であり、中期目標期間の業務が十分に進捗しているものと認められる。

特に、「デザイン総合学習Ⅳ」科目から、令和3年度には6件もの共同・受託研究へ発展させていることは、企業や外部機関と連携関係を築いてきた取組結果として特筆すべき成果であり、高く評価できる。(小項目16)

また、北海道や札幌市における「知と創造の拠点」として、地域特性に応じた社会において有用性の高い研究を推進していること(小項目15)は、評価できる。

ウ 地域貢献

小項目数7のうち、Ⅳ評価が5項目、Ⅲ評価が2項目であり、高い水準で中期目標期間の業務が進捗しているものと認められる。

特に、大学が持つ知的財産の発掘・事業化に資する産学官交流(小項目19)や地元企業・医療機関への人材輩出の取組(小項目20)、看護コンソーシアムの研修(小項目22)、公開講座を通じた知的資源の還元(小項目21,23)により、地域コミュニティの振興、地域産業及び医療への貢献を果たしており、評価できる。

エ 大学運営

小項目数22のうち、Ⅳ評価が5項目、Ⅲ評価が17項目であり、中期目標期間の業務が十分に進捗しているものと認められる。

特に、大学同窓会との連携した就業意欲向上の取組(小項目27)、情報発信の強化(小項目29)、学術情報の収集及び図書館機能の充実(小項目30)、教職員の資質・能力の向上(小項目35,36)は、評価できる。

(3) 今後の課題

新型コロナウイルス感染症については、令和元年度末頃から社会的な影響が顕在化し始め、対面講義からオンライン講義への切り替えや施設利用や課外活動の制限など、教育・研究環境に直接的な影響を及ぼし、大学運営においては、学生の学修機会の確保と感染対策の徹底との両立が求められた。

引き続き、学生が学びの機会を失うことのないよう、経済的困窮等のやむを得ない事情のある学生への相談体制の構築に加え、学生の修学意欲、将来のキャリアや学内の友人関係等に関する学生生活における悩みへの心理・メンタル面のケアなど、適切かつきめ細かな対応を進めていく必要がある。

また、新設されたAITセンターについては、社会課題解決に向けた「DNA」連携の研究及び地域貢献を基軸として、学生の教育・研究面へも積極的に関わり、その取組や

成果を、学生や受験生、企業、地域社会へ向け発信することで、大学のプレゼンス向上へ大いに貢献していただくよう期待する。

今後も大きく変化する社会情勢に、柔軟かつ機動的に対応するよう、教育及び研究、地域貢献、大学運営それぞれの分野について、自律的な組織として、継続的に自己点検し、検証及び評価しながら、絶えずその改善及び向上に向け積極的に取り組んでいただくよう期待する。

3 項目別評価

3-1 教育に関する評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A

イ 判断理由

小項目すべてがIV評価又はIII評価であるため。

(参考) 集計結果

小項目数	評価結果				IV又はIIIの割合
	I 大幅に遅れ	II 十分ではない	III 進捗が十分	IV 上回って進捗	
13	0	0	9	4	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

中期計画を上回って進捗している項目について、次のような点が挙げられる。

- ・企業や外部機関と連携関係を構築して実施する「デザイン総合実習Ⅳ」は、各教員の積極的な取組により、年々、連携件数が増加しており、地域や仕事の現場で活躍できる実践能力を備えた専門職業人の育成に寄与しており、高く評価できる。(小項目4)
- ・看護学部・助産学専攻科において、コロナ禍により実践型教育が難しい状況にも関わらず、オンライン型OSCEの導入など「ウィズコロナ時代」に沿った臨機応変な対応を実施し、実践能力を備えた看護職育成に寄与しており、評価できる。(小項目5)
- ・大学院博士後期課程において、学生が自立・計画的にデザイン学又は看護学の研究活動を進めるよう、研究計画書立案の指導・審査、公開発表会、学位審査における指導等を通じて、段階的に研究能力の向上、深い専門知識の習得、幅広い視野の養成を継続して行っている点は、評価できる。(小項目8)
- ・学生が学びを生かした就職活動ができるよう、多彩で丁寧なキャリアサポートの継続した実施により、両学部の就職内定率ともに毎年度、成果指標を上回っており、

評価できる。(小項目 9)

イ 遅れている点

特になし

(3) その他の評価委員会からの主な意見等

- ・ 困難な社会情勢や経済活動の低迷は、今後も続くことが予想され、学生の経済状況の実態把握に加え、学びの継続のため必要に応じた支援ができるよう、制度・体制づくりを検討する必要がある。(小項目 10)
- ・ 学生のメンタルヘルスの維持・向上については、例えば、カウンセラーによる相談件数など、学生の実態を把握することを主眼とした成果指標の設定も含め、検討する必要がある。(小項目 12)

3-2 研究に関する評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A

イ 判断理由

小項目すべてがIV評価又はIII評価であるため。

(参考) 集計結果

小項目数	評価結果				IV又はIIIの割合
	I 大幅に遅れ	II 十分ではない	III 進捗が十分	IV 上回って進捗	
5	0	0	3	2	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

中期計画を上回って進捗している項目について、次のような点が挙げられる。

- ・超高齢社会への対応、地域コミュニティの再生、地域産業の振興など地域課題に即して、「ウエルネス」「まちづくり」「産業支援」などを研究テーマとする共同研究を継続して推進している点は、評価できる。(小項目 15)
- ・実践的なデザインワークを学ぶ「デザイン総合学習IV」の企業・外部機関と連携した取組から、課題を抽出し共同・受託研究へと発展させており、また、その件数を大幅に増加させており、教育・研究・地域貢献すべての面から、高く評価できる。(小項目 16)

イ 遅れている点

特になし

(3) その他の評価委員会からの主な意見等

- ・研究成果を発表する動画配信が、本学の特長を発揮したデザイン・看護・AI 分野の連携研究や外部共同研究など先進的で質の高い研究の契機になるよう、支援策・仕組みを検討する必要がある。(小項目 14)

- ・外部資金の獲得に向けた科学研究費助成事業への新規申請について、順調に推移しているが、第三期中期期間の目標「在籍教員の90%」は高い数値であり、さらに申請を促すような効果的な具体策を検討する必要がある。(小項目17)

3-3 地域貢献に関する評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A

イ 判断理由

小項目すべてがIV評価又はIII評価であるため。

(参考) 集計結果

小項目数	評価結果				IV又はIIIの割合
	I 大幅に遅れ	II 十分ではない	III 進捗が十分	IV 上回って進捗	
7	0	0	2	5	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

中期計画を上回って進捗している項目について、次のような点が挙げられる。

- ・ネットワークや展示会の機会を活かした新たな方法での取組など、産業界及び保健・医療・福祉業界からの地域産学連携協力依頼の受諾数は、成果指標を毎年度上回っており、評価できる。(小項目 19)
- ・地元企業協力のインターンシップや市内企業を招いた講座などの取組は、地域への人材輩出とともに、地元企業の競争力や地域経済の向上に影響があるため、企業と大学の良循環につながっており、評価できる。(小項目 20)
- ・地元企業等の競争力強化に寄与する公開講座は、企業等の競争力強化や専門職の資質向上に寄与するものであり、遠隔形式の導入など、継続して開催されてきており、評価できる。(小項目 21)
- ・看護コンソーシアムの市内病院等と連携を通じて、保健医療福祉における看護職の人材育成を施設横断的に行うことにより、看護職のキャリア形成に寄与し、看護の質の向上に必要な活動を実践してきたことは、評価できる。(小項目 22)
- ・公開講座を通じて大学の知的資源を社会に還元し、市民がより良い生活を送るための新しい知見を獲得できるような生涯学習の機会提供や健康寿命の延伸に寄与してきたことは価値があり、市民生活に大きな成果を生み出すことが期待でき、

評価できる。(小項目 23)

イ 遅れている点

特になし

(3) その他の評価委員会からの主な意見等

- ・AIT センターの開設により、AI がデザインと看護の両分野の下支えとなり、教育及び研究の発展に寄与し、市政課題の解決や市の事業・施策を推進することへの貢献に大きく期待する。(小項目 24)
- ・公式ウェブサイト内の SCU-TV にて教員紹介や公開講座の動画が充実しており、市民や地域企業にとって、非常に興味深い内容である。今後もコンテンツの充実や増加など、ウェブサイトの充実に期待する。(小項目 25)

3-4 大学運営に関する評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A

イ 判断理由

小項目すべてがIV評価又はIII評価であるため。

(参考) 集計結果

小項目数	評価結果				IV又はIIIの割合
	I 大幅に遅れ	II 十分ではない	III 進捗が十分	IV 上回って進捗	
22	0	0	17	5	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

中期計画を上回って進捗している項目について、次のような点が挙げられる。

- ・同窓会との連携により、社会で活躍している卒業生・修了生の講演会を継続して開催しており、交流の機会を創出することにより、在学生の卒業後のイメージ形成や就業意欲の向上に貢献している点は、評価できる。(小項目 27)
- ・公式ウェブサイトや SNS、マスメディアを活用した広報活動で、ウェブサイトへのアクセスは、年々、増加しており、評価できる。今後も、戦略的かつ効果的な広報展開を推進に期待したい。(小項目 29)
- ・図書館の利用制限もあった中で、図書・文献郵送サービス等の適時性のある対応を実施し、学生の修学・研究の円滑な遂行を支援したこと、また、機関リポジトリを活用して教員や学生の研究成果を公表してきたことは、評価できる。(小項目 30)
- ・教育内容の改善、教員の資質向上の取組について、毎年度の計画に掲げた教育改善に資するFD研修の実施回数及び受講者数は、成果指標を概ね達成しており、評価できる。(小項目 35)
- ・各職員の業務改善等への意欲は非常に重要であるため、多彩なメニューの研修受講の機会が確保され、その指標となる研修派遣回数、受講者数が毎年度上回っていることは、評価できる。(小項目 36)

イ 遅れている点
特になし

(3) その他の評価委員会からの主な意見等

- ・サテライトキャンパスについて、市民や外部機関など利用者の視点で考えると、近年、対面から遠隔への切り替わりなど大きく変化している。サテライトキャンパス活用や存在の意義について、改めて検討する必要がある。(小項目 26)
- ・公式ウェブサイトについては、大学の特長や「価値」を可視化する広報により、認知度の上昇を図るほか、地域産学連携協力による社会貢献や国際交流事業の活発化、受託・共同研究・寄附金による成果事例の発信にも資するものであり、市民や学生、受験生、寄附者、行政それぞれのニーズに的確に情報を届けることができるよう、戦略的な取組に大きく期待する。(小項目 29)
- ・オープンキャンパスや進学相談会、出前授業について、遠隔形式のメリットを活かし、道内外問わず本学の価値を発信、伝達し、高校生や保護者、高校教員等の対象者の理解を一層深めていただくよう期待する。(小項目 31)
- ・教職員のワークライフバランスの向上は、第三期中期目標期間に重点的に取り組んできた項目であるが、成果指標の一つである教職員の有給休暇取得率が低いことは継続的な課題である。(小項目 32)
- ・大学運営のあらゆる事項について、「目標・計画」から「実行」、「分析・検証」、「改善」の各プロセスを可視化して進め、内部質保証システムとして機能させていく必要がある。(小項目 37)
- ・卒業時の教育評価アンケート等による学生の達成度調査について、ディプロマポリシー達成の検証のためには、さらに細分化された設問設定や他学との比較や分析が必要であり、今後の組織体制を含め、検討していただきたい。また、ICT を活用した授業評価アンケートなど、アンケートの回答率向上と併せて推進していただくよう期待する。(小項目 38)
- ・国及び札幌市は 2050 年までにゼロカーボンを目指しているところであり、大学における施設や設備の保全及び修繕のハード面に加え、教育・研究の面においても、財政状況を勘案し予算を確保した上で、計画的かつ積極的に取り組んでいただくよう期待する。(小項目 41, 43)
- ・教育研究その他業務の高度化及び円滑な遂行の基盤となる情報システムの運用を行うことを目的として開設された情報基盤センターが中心となり、学内の DX 推進に加え、急速に進展するデジタル社会への研究・地域貢献を期待する。(小項目 44)
- ・先進国の中で日本が遅れているジェンダー平等の意識改革について、教育に取り入

れるなど大学が率先し行っていただくよう期待する。

また、働き方改革やハラスメントについては、「D×N」で地域のあり方をデザインするテーマでもあり、教育機関として地域社会の意識向上に寄与するよう期待する。(小項目 45)